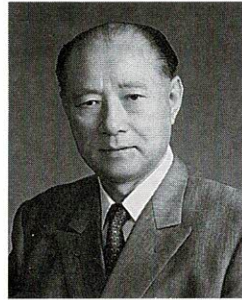


# 會津能樂會會報



会津能楽会会長

松枝和夫

## 会報発刊によせて

この度の会報創刊の快挙、本当に嬉しく思います。

今迄無かったのが不思議なくらいでした。と思いますのは、会津能の輝かしい歴史と伝統があるにかかわらず、何故か全国はおろか東北でも正しい理解と評価を得ていなかった。これは由々しきことで、かねがね会報による広報活動が必要だと考えていました。この新会報がもつ「対外的効果」は送付する相手さえ妥当ならば間違いなく絶大です。また体内的には「親睦の向上」が全会津的に図られることも見逃せません。また体あたかも本年は福島国体にあたり、実力が認められて、県を代表して、プロ狂言と共演できる機会も得ました。ご同慶にたえません。

このように発展する「市民だけで演能力のある会津能楽会」に求められているものは、更なる人材の養成です。「皆で書き」「皆で読む」の中に真の親睦と修練が生まれるでしょう。同時に宿願の「能楽堂建設」のために一段と威力を発揮してくれるでしょう。こんなわけですから、この会報の発刊が、会津能楽会の将来をますます明るくしてゆくことを、心から期待しております。



## 創刊号

発行責任者

会津能楽会会長

松枝和夫

発行者

会津能楽会広報委員会

〒965 会津若松市行仁町13-4

電話0242(24)9699

会津能楽会所蔵

こおもて  
(小面)

会津若松市文化財指定

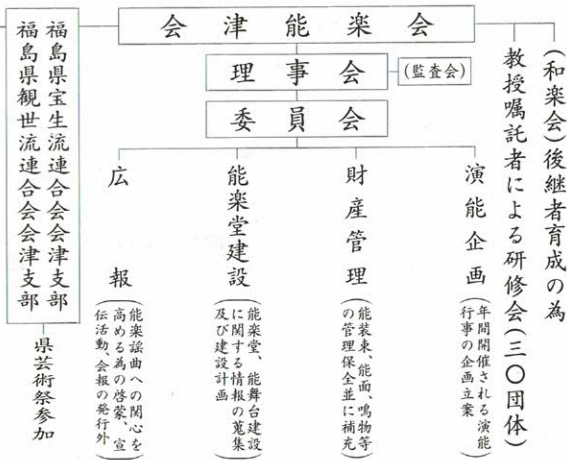
# 会津能楽会の組織と機構

本会の歴史は古く先人の方々の熱情と努力により幾多の変遷を経て明治・大正と継承され、昭和二十四年会則を定め会津宝生能楽会として発足した。昭和三十年親世流が参加、会津能楽会と改称し現在に至っている。本会は会則及び内規約により運営されその目的は能楽の伝承と発展を図り、地域文化の振興に寄与し、併せて会員相互の親睦を図る。

又、事業として春秋の演能と会津まつり協賛の薪金、能楽研究会の開催、能楽後継者の育成、専門職（職分）による能狂言の公演及び能面、能装束、鳴物等の管理保全並びに補充等である。本会は正会員と特別会員（会に功労のあつた者、又は学識経験者）によつて構成、毎年二月に定時総会を行い、理事若干名（現在十五名、会長一名、副会長二名、事務局長一名、庶務一名、会計二名を含む）監事二名により運営されている。現在の会員数は百五十名、本会

は従来会津一円の中心的立場にあり、今後益々その要請が増すものと考えられる。（会津方部同好者約六百名）

## ■図表による組織と機構



職分の主宰する研修団体(十三団体) 会津能楽囃子会(年一回研修大会) 本会、今後の課題は能楽堂建設を柱とし能楽、謡曲の理解を深める活動、特に若年層への浸透が急務と思われる。(文責 中村寿男)

# 「能楽堂」建設をめざす活動

会津若松市は会津地方拠点都市の指定を受け、発展的な構想により、新しい諸施設、設備が計画されており、今話題となつていゝる新市庁舎は、会津若松西地区に建設される事はほぼ確実とみられます。又旧謹教小跡地には、生涯学習拠点施設として、公民館機能・利用型図書館機能・科学体験画と聞いております。この施設は平成七年より平成十六年迄の十年間計画で建設される予定になつていゝるそうです。さて我々能楽会の望む、能楽堂の建設についてですが、この機会をのがすことのないような働きかけと、積極的な活動を起こしていく必要があります。

生涯学習拠点施設に能楽堂を併設するか、二階、又は三階に常設する方法など、具体的な方針を出して関係当局にお願いしていくべきと考えております。今迄の中では、歴代市長に要望書等により陳情を重ねております。しかしこれ

も容易にらちがあきません。次の手段として市議会議員に理解を求めめる作戦も考え、何回か会合をもち検討をしていゝる処であります。今後は更に、市議会に陳情し、諸調査費を予算化していただき、能楽堂を所有してゐる先進県、都市について視察調査を行ない建設促進をすすめていかなければならぬと思ひます。何よりも大切なことは、能楽会会員の一人一人がこれらに対する理解をもち、それぞれの分野の中で、市民運動をして能楽堂建設を押しすすめていゝってほしいものです。更に能楽堂建設資金についても、会員のカンパ、一般市民等へも呼びかけ、定期的に行つていく必要があります。早期実現をめざして頑張つていゝきましょう。(文責 庄條静雄)

# 会津能楽の原点をたずねて……

「次の世代へ「能」をつなぐ

かけ橋となる」



多分大正七・八年頃の写真と思います。左はしの刀を振り上げているのが私の父です。(昭和四年、三十六才没)場所も当時のどこかの料亭でしょうか、この写真から想像すると昔の先達は、観客に見てもらいよりも、自分達が演技するのを心から楽しんでいたような気がします。職分(プロ)を招んで、能装束等を揃えて、ささやかに「能」を享受していたことと思われまます。松の幕も、装束の何点かは現在の能楽会に承けつがれているものでしょう。藩政時代から庶民にうけつがれてきた能は、明治、大正のこうした人達によって継承されてきたものと思えます。戦後だけでも五十年、演能も數百回に及び又鶴ヶ城の薪能も今年で十回の公演となります。一昨年は市内諏方神社での薪能が盛大に催され、昨年は新装なった風雅堂

に約千名の観客を動員して演能会が行われました。

これからの会津能楽会は、多角的な広がりを見せることと思えます。能楽堂の問題、能装束、後継者、その他の問題もありますが、何よりも先づ、演能活動をするこゝとです。行政のいう地域文化の発展に貢献するにはこれしかありません。行政も包含した親睦外郭団体も必要でしょう。又、ささやかな「能」を勉強する会もよいと思います。能楽会員皆さまの英知と努力を結集すればこれから五十年後、百年先の能楽会の基盤が出来ると思えます。「能」は古典です。私の知る限りでは、江戸期以前を古典と解釈しています。巷でよくいろいろなものがあるが古典芸能と言われてはいますが、「古典」と名がつけられるのは正に「能」しかありません。それに、古典芸能ではなく「古典芸術」です。私達は胸を張って能芸術を次の世代へつなぐかけ橋となる活動をしていきたいものです。(文責 松川善之助)

歴史と文化の町会津若松市に「能楽堂」建設を実現させよう

# 能装束について

私が会津能楽会に入会させていただきましてのは、昭和三十九年頃だったと思います。動機は、能が演ぜられるとき、裏方である装束付けの仕事の大変さを知り、お手伝いさせていただけたらとの思いからでした。神山左近先生・奈良部松堂先生・内藤幸助（私の父）の親切なご指導をいただき（皆さま故人となられました。）今日に至りました。

さて本会保有の装束関係についてお伝えさせていただきます。まず主な装束類の名称を挙げて見ますと。

○冠り物―初冠・唐冠・天冠・鉄輪・烏帽子類・角帽子など  
○能面―尉・飛出・癒見・般若・泥眼・小面・増・泣増・万媚・深井・曲見・平太・十六・怪士・狸々など（能面が曲の位を支配するといわれる）

○頭髮―鬘・尉髪・黒頭・赤頭・黒垂など

○装束―着付（箔・厚板・熨斗目・表衣類（唐織・長絹・水衣・直垂・狩衣・法被・側次など）袴（白大口・緋大口・半切など）付属物（鬘帯・腰帶・鉢巻・笠・掛絡・篠懸・腰蓑・袴など）

これらには明治・大正の頃から伝えられて来た由緒ある品々があり、

唐織・半切などは、糸から吟味して織上げた素晴らしいもので、先人が会津の能楽に向けられた心が脈々と伝わってまいります。毎年一度虫干しをして保存に努めておりますが、古い立派な装束は年月の重みに耐え

## 能「小督」のツレを演じて

一昨年の秋の能楽会で、能「小督」のツレ役をやらせていただきました。始めての事なので、ご連絡を受けた時は、大変びっくりいたしました。しかし折角お役をいただきましたので、未経験の能の世界を知るためにも思い「初舞台」をふませていただきました。能の場合、「すり足」が基本という事で、まず私は、早朝稽古より始めました。

又「面」をつけての運び方、立ち居ふるまい等、先輩の方達の親切なご指導を頂きました事は何ものにもかえられない勉強になりました。小督しさを痛い程身にしました。小督の場合ツレが立って、柴折戸を開けたり、又お酌をする型なども扱山ありましたので、仮設舞台を設定しそれぞれの位置に小道具を置き歩数で自分の行く場所、座る場所等を覚えるよう工夫しました。

かねて、いたみが激しく、補修しつつ使用している現状でございます。新調するにしても高価なもの故思うにまかせませんが、幸い会費会計から装束関係の積立てがなされており、

昨年は鬘二つと水衣が購入されました。本年も装束方一同しつかり取り組んでまいりたいと存じております。

（文責 丸山美伊子）

## 能「小督」のツレを演じて

又立ちひざで下に居をしている時間が長いので、足袋の中に真綿を入れたりと苦労いたしました。謡についても、まだまだ未熟者の私でしたので、自分の謡う処を必死なつて稽

古いたしました。又能一番を演ずることは、その全部を知らないとい、自分の役処もわからないので、全部を

暗記する努力もし、約一ヶ月間は、誠に充実した緊張の日々でした。能楽会の諸先生方の暖かいご指導により、無事その日を迎える事が出来、厳肅の中に岸栄一郎先生始め、丸山美伊子先生方に装束や、面をつけていただきました事、感無量でございました。私の生涯忘れられない思い出となること存じます。あの優美で華麗な装束、唐織のずっしりした重量感が今でも体中に感じます。本当にありがとうございます。

（文責 渡辺ヒロ子）



# 能のひびき

## 父と笛

私は昭和六十三年一月に会津能楽会に入会させていただきました。あのころの会津能楽会入会はうれしい出来事でした。更に、夢のようだったのはその年の秋の発表会で舞囃子「山姥」の笛のお役をいただいた事です。

病床にあった父は笛のお役のことをとても喜びました。十月二十三日の発表会の朝「お父さんに聞こえるように吹いてくるよ。」とあって病院から会場に参りました。父の事を念じながら吹いて、終ると走りながら帰りました。父は「よく聞こえた。きれいな音色だった。」と喜んでくれました。父が亡くなったのはそれから十三日後です。

私は笛のお役をいただきますと、父の墓前で吹いてから発表会に参ります。何にもかえがたい、一生の思い出を作っていただいた皆様感謝しております。(文責 吉田幸子)

## 謡曲に魅せられて

「謡曲を教えて頂いて、まだ十年にもならない私ですが、始めるキツカケは亡くなった父の強い勧めでした。「そういう古典的なものは六十を過ぎたら始めるから」と答えておりました。

ところが身近な方がやっておられた関係で、急にやることになってしまいました、いきなり稽古となったわけです。一対一の稽古は、声の大きさに驚き正座のつらさも有り、続けていけるかどうか心配でした。しかし、本を読んでいくうちに歴史上の人間の繰り広げる感情や息使い、その時々々の空間に吹く風までもが聞こえて来るような気がしてきました。現代演劇のように泣き叫んだり大声で笑ったりは能では有りませんが、内面(心)の強さで謡うのを聞いた時とても感動しました。それからというもの、謡を聞く時は少しでも内容を知らたい為に次の謡本を捜す今日此頃です。(文責 坂内庄一)

## 身も心もひきしまる幻想の世界

私は平成元年以来、毎年新能を拝見しています。いつも感心しており、まずことは、番組が開始されると、鶴ヶ城本丸に設けられた舞台の、あの広い客席がシーンと静まり返ってくるといふことです。かがり火のたてるパチパチという音までよく聞こえるのです。しわぶきの音一つしなくないように思われます。かがり火に照らし出された幻想の世界が、見る

人の身も心もひきしめるのでしょうか。

私はあの静寂と、本物のかがり火がかもしだす雰囲気がとても好きで、拝見させていただくのを毎年楽しみにしております。

また、最近気が付きましたことは、客席に外人さんの姿が増えてきたということです。古典芸能を外国の方に見ていただけるのは、国際化社会にふさわしいよううれしく思っています。(文責 河東町・主婦)

## 演能を観た市民の声

### 始めて見た能の世界

友人に誘われて、平成六年秋の風雅堂での発表会を見に行きました。謡曲と仕舞は今までに何度か見る機会がありました。舞囃子と能は始めてでした。

パンフレットを見て、能の「草紙洗」を「そうしせん」と読んだら友人に「そうしあらい」と言われまして。独特の読み方をするんですね。表紙に写真があり、能の内容がわか

りやすく載っていて見やすいパンフレットだと思いました。

能は感激しました。紋付を着た皆さんが背筋を伸ばして舞台に入ってきた時、厳肅な雰囲気を感じました。笛の音が響いた時には、心がふるえました。ライトに照らされた衣装の美しかったこと。面は「おもて」というようですが、角度によって微妙に変化して素敵でした。正に、夢のような時間でした。

(文責 会津若松市・会社員)

# 十周年記念「会津新能」を成功させよう!!

# 広報活動に参加して……

会津能楽会に加入したのは、昭和五十二年と記憶しております。その年の秋の演能会は、鶴城小講堂で行なわれ、始めて「鶴亀」の仕舞を舞わせていただきました。平成六年の現在迄十八年間、春・秋の演能会は一回も休むことなく継続されております。これは会を運営している先輩各位の並々ならぬご努力によるものであり、今更ながら、すばらしい古典芸能の世界に魅せられるばかりです。一方ふりかえってみると、毎回見所で観賞する市民人口は余り増えていないことが大変残念に思います。平成六年度は、春・秋の演能、又薪能の番組を多くの人達に配付して観客へのPR作戦を展開いたしました。

配付先は、市内の企業各社、大手銀行、会津大学、短大、商工会議所、青年会議所、県会津若松合同庁舎、市役所公民館等二日間の日程をとって訪問し、能楽会の活動内容を説明し、理解と協力が得られるよう歩き廻りました。行く先々で、大変な反響がありましたので、広報活動の結果は、観客数の増大につながったのではないかと評価しております。更に市民の各層にむけて、情報を発信しながら、演能の観客数が、どん

どん増え、それが能楽堂建設へ発展していくよう会員一人一人の力を結集していきたいものと念じます。  
(文責 玉川おくに)



諏方神社薪能「土蜘蛛」小蝶の出 (観請700年祭記念)

## 広報からのお知らせ

### ○春季演能会

日時 五月十四日 午前十時

場所 文化福祉センター

演目

能「須藤源氏」宝生流

能「桜川」宝生流

舞囃子

「船弁慶クセ」観世流

「弓八幡」宝生流

### ○会津鶴ヶ城薪能(十周年記念能)

日時 九月二十三日 午後五時

場所 鶴ヶ城本丸

演目 能「土蜘蛛」

仕舞 宝生流二番

観世流二番

### ○福島国体協賛「スポ芸」演能会

日時 十月十五日  
場所 風雅堂  
演目 (1)狂言(題未定)  
(野村万作による)

(2)能「黒塚」

### ○春の和楽会

日時 四月九日(日) 午前十時

場所 文化福祉センター

出演申し込みは二月二十五日迄

各会の出演の是非を総会時にお知らせ下さい。

### ○会津能楽会総会

日時 二月十二日

場所 未定

### ○第七回能楽囃子会

日時 三月十二日(日) 午前十時

場所 梅屋敷

(文責 広報委員会)

## 編集後記

会報創刊号ということで、編集委員一同責任の重大さを感じ何回か打合わせを行ないようやく発行の運びとなり感慨無量です。

紙面に限りがあるので、あれもこれもと思いつながらも最少限にとどまりました。

会津若松市に能楽堂の建設をと陳情や要望書を市当局に提出し何年かたったが、我々会員の熱い願いは何時か実現することを念じ続け、更に

活動を強化していきたいものです。尚会員の皆様の声、又市民の皆様からの声など建設的なご意見をお寄せいただければ幸いです。

### 編集委員

- 松川 善之助
- 庄 條 静雄
- 玉川 おくに
- 木村 玲子
- 吉田 幸子